

プログラム

10月18日（金）

【シンポジウム関連事業】

9:30-11:30 「水墨の技法と表現を愉しむ」帝京大学美術史演習によるワークショップ
（東京永田町、帝京大学霞ヶ関キャンパス）

【第1セッション 見学会】

13:00-14:30 畠山記念館「書之美—和歌のころ・禅のころ—」展見学会
（東京白金台、畠山記念館）

【第2セッション ワークショップ】

15:30-17:30 若手研究者によるワークショップ（東京永田町、帝京大学霞ヶ関キャンパス）
「版と墨の変容—暁斎とヤンセン」小林優（足立区立郷土博物館専門員）
「高島北海の席上画とその筆致」鶴飼敦子（東京大学東洋文化研究所特任研究員）
「ジョージア・オキーフと水墨画」玉井貴子（早稲田大学大学院博士後期課程）

10月19日（土）

【第3セッション 水墨の現在】

9:30-10:00 開場（東京永田町、帝京大学 霞ヶ関キャンパス）
10:00-10:10 開会のあいさつ 馬淵明子（国立西洋美術館館長・ジャポニスム学会会長）
10:10-10:15 共催のあいさつ 長田憲幸（公益財団法人畠山文化財団常務理事）
10:15-11:00 「水墨のジャポニスム・概観」宮崎克己（美術史家・ジャポニスム学会理事長）
11:00-11:40 「現代書家の眼から」菊山武士（書家）
11:40-12:20 「水墨画は可能か？」三瀬夏之介（日本画家）

【第4セッション 受容の軌跡】

14:00-14:30 「欧米美術館における水墨画コレクション」板倉聖哲（東京大学教授）
14:30-15:00 「欧米における書の理解」水田至摩子（畠山記念館学芸課長）
15:00-15:30 「西洋における水墨画の受容」南明日香（相模女子大学教授）

【第5セッション 総合】

15:45-17:00 共同討議「水墨の交流とその未来」
17:00-17:15 閉会のあいさつ 岡部昌幸（帝京大学教授）
17:30-19:30 懇親会

ファン・ゴッホ《広重「名所江戸百景 亀戸梅屋舗」模写》（部分）
1887年、ファン・ゴッホ美術館

〈趣旨〉

19世紀後半の欧米において、日本の浮世絵、琳派などが愛好され、それらの色彩や装飾性は印象派やアールヌーヴォーに影響を与えました。しかし近年では、そうした良く知られるジャポニスムのかたわらに、日本の筆遣いやモノクロームの表現に魅せられた者たちがいたことも注目されています。

西洋では、日本・東洋文化のもっとも奥深い部分をなす水墨（書と画）をどのように理解してきたのか、そこではどのようなコレクションが形成されたのか...、このシンポジウムでは、このジャポニスムの隠れたもう一つの系譜について探ります。

パネリストとして、国内・海外で活躍する現代の書家と日本画家、言葉と造形の両面から西洋における水墨の受容を考える美術史家・文化史家が、それぞれの立場から発表し、意見をかわします。

畠山記念館では、「書之美—和歌のころ・禅のころ—」展を開催しており、その見学会もシンポジウムの一環として組みこまれます。

参加申し込み方法

下記連絡先へ、①10月18日（金）、②19日（土）、③懇親会のいずれにご参加かを明記の上メールまたはFAXで参加申し込みをお送りください。参加証をお送り致します。なお、定員100名に達し次第、締め切らせていただきます。

申込期間	10月1日（火）～10月15日（火）ジャポニスム学会事務局（連絡先）
Email	japonisme@world-meeting.co.jp
FAX	03-3341-1830
ホームページ	http://www.world-meeting.co.jp/japonisme/

シンポジウム参加費（資料代）500円
懇親会参加費 2000円（いずれも当日受付にて頂きます）